

論文内容の要旨

報告番号		氏名	則本 和伸
Effect of assertive case management intervention on suicide attempters with comorbid Axis I and II psychiatric diagnoses: secondary analysis of a randomised controlled trial (I軸とII軸を併存した自殺企図患者へのアサーティブケースマネジメントによる介入の効果 無作為化比較試験の二次解析より)			

論文内容の要旨

自殺企図患者の多くは何らかの精神疾患に罹患し、しばしばパーソナリティ障害を併存することが知られている。しかし、I軸診断(うつ病やアルコール依存症など II軸以外の全ての精神疾患)とII軸診断(パーソナリティ障害と知的障害)が併存する自殺企図患者への介入効果についてはこれまで十分に証明されていない。今回我々はアサーティブケースマネジメントによる介入により、I軸とII軸が併存する自殺企図患者の自殺再企図を減少させることができるかを評価した。

本研究は、救命救急センターと精神科が併設している日本の17施設で行った研究で、アサーティブケースマネジメントが enhanced usual care と比較し、自殺再企図を減少させることができるかを調査した無作為化比較試験(ACTION-J)の二次解析研究である。ACTION-J 研究の対象者は 20 歳以上で自殺企図のために救命救急センターに入院し、Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders 4th Edition (DSM-IV)で I 軸診断が主診断の患者とした。参加者に心理教育を行った後、同意を取得できた参加者をランダムに介入群とコントロール群に割り付けた。介入群は、通常治療に加え、心理士や精神保健福祉士などがケースマネジメント(患者と定期的に連絡をとり、心理社会的評価、精神科受療の促進、必要な社会資源の導入等を実施)を行い、コントロール群は通常治療を行った。結果は介入群がコントロール群と比較し、ランダム化後 6 ヶ月にわたり自殺再企図を有意に減少させた。本研究では、ACTION-J の対象者を I 軸と II 軸の診断を併存している群(Axis I+II group)と I 軸のみの群(Axis I group)にわけ、それぞれの群をさらに介入群(Case management group; CM group)とコントロール群(Enhanced usual care group; EUC group)に分け比較した。

対象は 914 例で Axis I+II group が 120 例であり、そのうち Axis I+II/CM group が 68 例、Axis I+II/EUC group が 52 例であった。また、794 例は I 軸のみで、そのうち 392 例が Axis I/CM group で、402 例が Axis I/EUC group であった。Axis I/CM group と Axis I/EUC group とのランダム化から 6 ヶ月後の自殺再企図の発生率のリスク比(RR)は 0.51(95% Confidence Intervals (CI) 0.31-0.84)であり、Axis I+II/CM group と Axis I+II/EUC group の RR は 0.44 (95% CI 0.14-1.40)であった。

自殺企図で救命救急センターに入院した I 軸のみの患者に対してアサーティブケースマネジメントは 6 ヶ月後の再企図を有意に減少させた。また、I 軸と II 軸を併存する患者に対しても RR は I 軸のみの患者とほぼ同等であり、アサーティブケースマネジメントは I 軸と II 軸を併存する患者の再企図を減少させる可能性があることが示された。